

がん相談教育ネットワーク事業 －「病院を挙げた全人的な相談支援」のために－

国立がん研究センターがん対策研究所
がん情報提供部 八巻知香子

がん相談支援センター誕生の経緯

国民による不満や不安

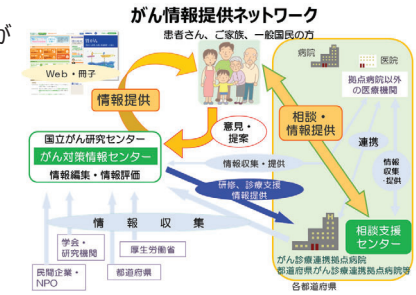
- 地域や病院・先生によって、受けられる治療や得られる情報が違う
- 海外で使える薬が日本では、なぜ使えないのか？



『がん対策推進アクションプラン2005』

- ① 国民・患者視点からがん対策全体を総点検し、がん対策の基本戦略を再構築
- ② 国民・患者の不安や不満を解消するため、「がん情報提供ネットワーク」を構築
- ③ 「がん情報提供ネットワーク」に関する提言やがん対策の評価を行うための「検討の枠組み」を創る

平成17年8月25日 厚生労働省 がん対策推進本部
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan01/pdf/01.pdf



『(がん)相談支援センター』は、当時の患者さんやご家族の声によって、
 “患者及びその家族の不安や疑問に適切に対応できるよう”、
 「役立つ情報の提供」や、「正確な情報による支援を行う」

がん相談支援センターがめざすもの

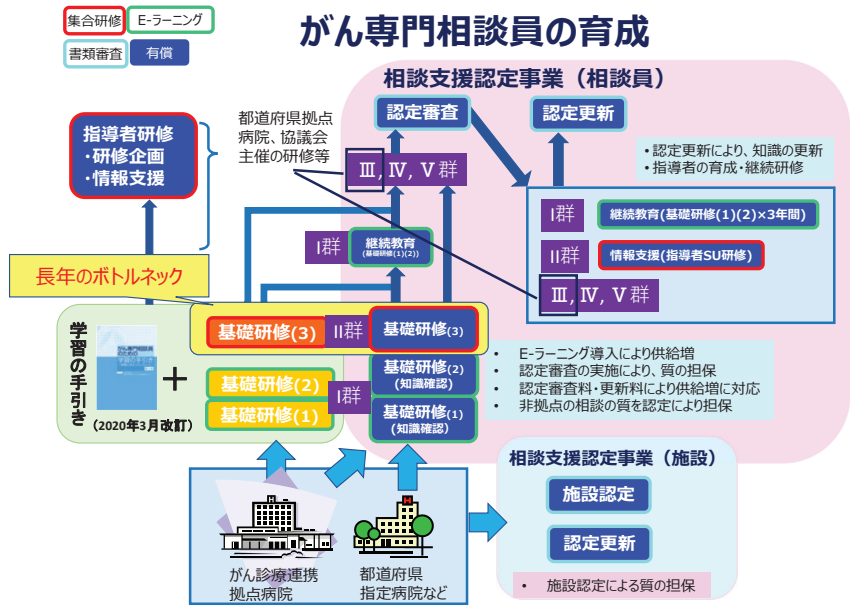
- 1. 誰でも（院内、匿名も可）**
院内・院外を問わず、患者・家族を問わず、必要なら匿名で、かつ、無料で。
- 2. 信頼できる情報を**
「がん情報サービス」、その他の信頼できる情報を探し、活用して。
- 3. 中立の立場で、橋渡しをすることで**
医師、看護師からは中立の立場で説明、橋渡しを行うことで、理解を促す。
また橋渡し、支援の選択肢を広げるため、院外の地域ネットワークを構築し
- 4. 自ら解決できるよう支援する**
相談者に寄り添い、困りごとの本質をともに考え、情報を提供することで支援する

「がん相談教育ネットワーク事業」の背景

- 医療の急速な高度化、選択肢の増加により、患者自身が医療の内容を理解する必要性の増大
→がん患者、家族の相談ニーズの増加、複雑化、多様化
- 「病院を挙げて全人的な相談支援を行う」（R4年発出整備指針）
→がん相談支援センター以外の医療職にも相談支援の基礎を知っていただくことがこれまで以上に必要
- がん相談支援実践の均てん化と充実を図ることを目的として、国立がん研究センター主催により、2007年度よりがん相談支援センター相談員基礎研修(1)(2) (E-learning型)、2008年度以降、がん相談支援センター相談員基礎研修(3) (グループワーク型)を毎年開催するが、(3)については、**受講希望者すべてに提供できない状況**

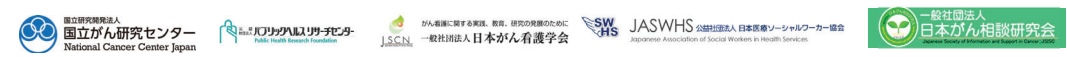
がん相談支援センター相談員基礎研修(1)(2)(3)の位置づけ

- 地域がん診療連携拠点病院
国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談員基礎研修(1)～(3)を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ1人ずつ配置すること。
- 都道府県がん診療連携拠点病院
国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談員基礎研修(1)～(3)を修了した専従の相談支援に携わる者を2人以上配置することが望ましい(★)。また、相談支援に携わる者のうち、少なくとも1人は国立がん研究センターによる相談員指導者研修を修了していること。

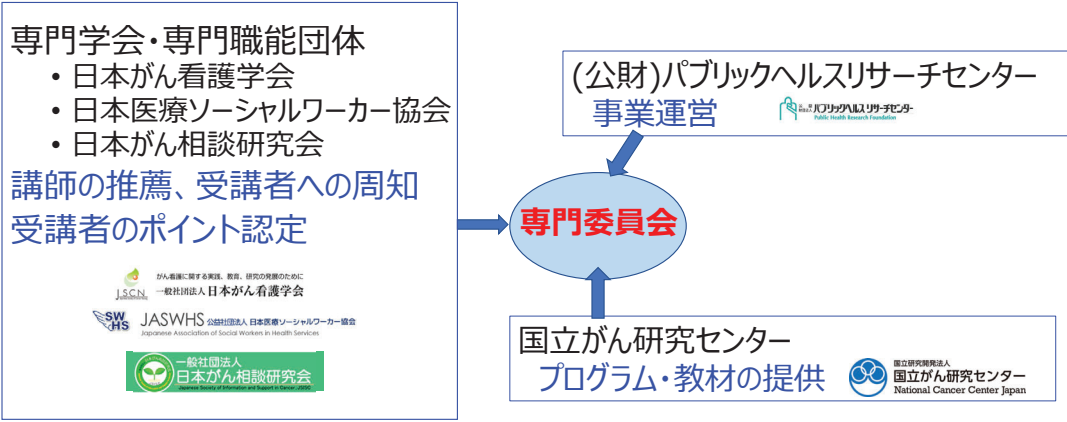


「がん相談教育ネットワーク事業」の目的

増大するがん相談のニーズに応えるため、
国立がん研究センター以外の団体が主催し、
 国指定拠点病院のがん相談支援センター相談員以外の医療者にも、
がん相談の基本事項、相談支援の基本姿勢を学ぶことのできる研修を提供できる仕組みをつくること



実施体制



本枠組みにより、2023年～2025年の3年間で、自律的に研修を提供する仕組みを整える

専門委員会

役割：本事業の進め方を決定する本プロジェクトの意思決定機関
 各団体に対しては、本事業への各団体の参画の仕方を調整していただく

専門委員		
日本がん看護学会	相模原協同病院	波多江優
	獨協医科大学病院	岸田さな江
日本医療ソーシャルワーカー協会	事務局長	山崎まどか
	東京医科大学八王子医療センター	品田雄市
日本がん相談研究会	長野市民病院	横川史穂子
	静岡社会健康医学大学院大学	高山 智子

運営事務局 (公財)パブリックヘルスリサーチセンター
 中里淳子、村松垂矢、西村尚子、汐田佳織

プロジェクト責任機関 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部
 八巻知香子、小郷祐子、高橋朋子

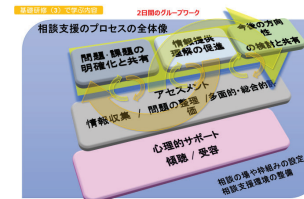
1年目の実施事項

当初目標：国立がん研究センター相談員基礎研修（3）相当の研修を実施すること

2023.5.21	第1回専門委員会	プロジェクト実施枠組みの合意
2023.6.13	第2回専門委員会	募集要項の検討、講師の推薦
2023.7.4	第3回専門委員会	募集要項の決定、講師研修の検討
2023.8.16	厚生労働省事業説明	「基礎研修（3）」と同質であることの検証が必要との指摘
2023.8.20	第4回専門委員会	同質性の検証のための評価方法の検討
2023.9.10	講師研修会	本プログラムの位置づけや検証内容について説明 プログラム内容やファシリテーション方法については全員が国立がん研究センターの基礎研修（3）を繰り返し務めた講師であったため割愛
2023.10.14-15	相談員基礎演習	研修の実施、研修効果・運営の評価 ←現時点
2023.12.6	第5回専門委員会	受講生の到達度の検証

「相談員基礎演習」として、基礎研修（3）と同内容のテキスト、プログラム、講師により運営し、受講生の層が変わっても、同質の研修が実施できるかどうかを検証する

2023年相談員基礎演習



【学習内容】

相談員としての基本姿勢を学ぶ

多面的な対象者理解、アセスメント、課題、支援（相談の展開）を含む

「相談支援のプロセス」を学ぶ

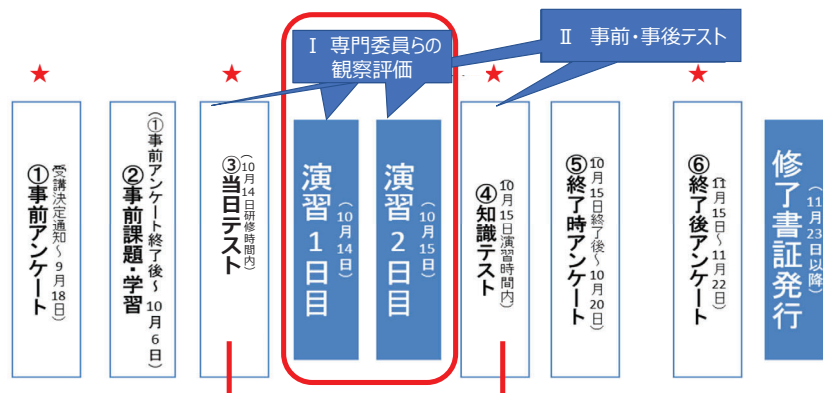
【実施形態】

- 2日間、オンライン開催。無料（整備指針を満たす基礎研修（3）とは認められず、試行プログラムの研究協力者の役割をもった受講であるため）
- プログラム、テキスト、講師・副講師は、国立がん研究センター相談員基礎研修（3）を繰り返し経験
- 受講者24人（当日欠席により22名）、4グループ
国指定拠点専従・専任1割、同兼任・その他4割、都道府県指定等4割、クリニック等1割

【基礎研修（3）との同質性の検討】=本来学ぶべきものが学べているのか

- 専門委員が各グループをオブザーブし、学習目標に沿った議論がされているかを評価 **本日の報告**
- 学習目標にある知識、考え方、対応の仕方を理解できたか確認する事前・事後テスト
- グループワークの各段階で作成されるワークシートに、記載されている論点、気づきの内容を定性的に分析、基礎研修（3）と比較
- 研修で理解した内容を、相談支援（またはがん患者支援）で実践できているかを確認する事後アンケート

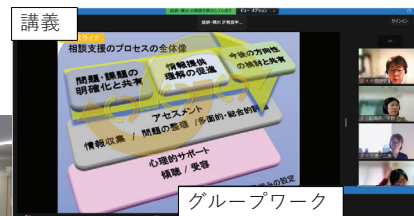
基礎演習実施前・当日・事後のスケジュール



厚生科研高山班「がん相談支援の質の確保及び持続可能な体制の構築に資する研究」による、相談員基礎研修（3）への習熟度テスト導入に向けた試行を兼ねる。

★は、基礎研修（3）にはなく、本事業の効果検証、上記試行のために導入した付加要素

10月14-15日 当日の様子



①オブザーバー（専門委員）による評価

【個別の指摘】 **各セッション、目標ごとに対応すべき・改善可能な点は具体的な指摘**があがった

【全般的な評価】

以下、オブザーバー評価シート評価シート「全体的な評価」から抜粋

- 既存の研修をもとに工夫は必要ですが、**研修の質をさげずに外部委託で広げていくことはできると**思いました。（がん看護学会推薦委員）
- 全体を通して研修目的にそった学びを深めることができた。**立場の違い、がん相談の経験の違いはあるも、そのことが対象理解を深めることやコミュニケーションのスキルの多様性を理解**することを深めることが出来たのではないかと。（がん看護学会推薦委員）
- 結論からいえば、**受講者層の違いと研修成果（グループワーク中や全体共有での発言や議論、成果物など）については関連していない可能性が高い**、と感じた。その**前提条件として、受講モチベーションの高さとファシリテーターの資質**があると推察した。（医療ソーシャルワーカー協会推薦委員）
- 学びの点については、NCC開催での対象者が相談支援センターに特化した研修とほぼ同様な学び**につながったのではないかと感じました。（がん相談研究会推薦委員）
- 対象者を拡大した際に、**基礎研修3とおおむね同等の学習目標の到達**できたと思いますが、そのために一番大きな要因は、**ファシリタダ**と考えます。（がん相談研究会推薦講師候補）

②知識の正当率

設問内容	事前正解率	事後正解率	
1. がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターの役割と業務	56.5	50.0	
2. がん専門相談員の役割と業務	87.0	86.4	
3. 質の高いがん相談支援に向けた基本姿勢Core Values	87.0	77.3	
4. 「がん相談の10の原則」	69.6	63.6	
5. 「相談支援のプロセス」	60.9	68.2	
6. コミュニケーションスキル	95.7	95.5	
7. 対象者理解	100.0	100.0	
8. 他の専門職や他機関等との連携	60.9	86.4	P<.05
9. 疾患や治療、身体的側面のアセスメント	39.1	54.5	
10. 心理的側面のアセスメント	82.6	81.8	
11. 社会的側面のアセスメント	73.9	77.3	
12. 事例での相談員の対応の評価	26.1	68.2	P<.01

知識問題は大きな変化は見られなかったが、テーマとした連携、事例への総合的な分析力を見る相談員の対応への評価は向上（各問が複数回答がすべて合って正解の扱いとなるため、もう少し詳細な分析は必要）

現在の達成と今後の予定

【初年度の試行】

- 国立がん研究センター相談員基礎研修（3）同一のプログラム、テキスト、講師・グループファシリテーターで、「相談員基礎演習」として実施し、**受講層が変わっても同質の学びが提供できるかを検討**
- 研修を終日オブザーバーとして観察・評価した専門委員は、**学ぶべきポイントは議論されていたと**評価
- 経験と力量のあるファシリテーターによる運営**だったからこそその達成

【今後に向けて】

- ワークシートの分析、テスト結果のより詳細な評価による、**基礎研修（3）と同質性の証明**
- 講師、ファシリテーター向け**研修・マニュアルの充実**
- 自律的・継続的な実施のための、**有料で実施しても十分な受講希望者を集められるかを**検討